

共に生きる WITH LIFE

2023
ウィズライフ
第57号

テーマ

次世代を支える



私たちの「願い」

私たちは、公益に資する法人として、

- 「高齢者も障がいのある人も社会で共に暮らし、共に生きることがノーマルである」というノーマライゼーションの理念に基づき、
- 高齢者や障がい者が安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備・向上を通して、
- すべての人が生きがいをもって生活できる社会づくりと、社会福祉の増進に寄与することを目的に取り組んでおります。

私たちのこの「願い」のため

尚一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう

心からお願い申し上げます。

公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団

理事長 土屋 昌三

WITH LIFE 第57号 目次

特集 次世代を支える

- 4 どんな障がいがあっても生まれ育った地域で普通に暮らせるよう、共に取り組みましょう
—— 北海道手をつなぐ育成会
- 9 障がいがあっても地域の一員として生き生きと働き暮らせるようサポート
—— 社会福祉法人ホープ(白老町)
- 10 ここが知りたい
(1)発達障がいのある子どもを支援するデイサービスの内容は？
(2)「子ども相談支援センター」は、どんな相談に乗ってくれるの？
- 14 介護・自立サポートアイテム 進化型シニアカー「WHILL」
- 16 小中学生による「安全・快適アイデア」コンテスト
- 18 トピックス 子どももシニアも集う「多世代交流ひろば」
- 19 「ノーマライゼーション住宅財団」活動紹介

2023年4月1日発行

発行人／土屋昌三

発行所／公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団◎

〒060-0042 札幌市中央区大通西16丁目2-3ループ16 9F

TEL 011-613-7551 FAX 011-612-8431

URL <http://normalize.or.jp/>

【制作スタッフ】 ●編集協力／株式会社日本商工振興会

●編集総括／奥野 彰 ●取材・文／大藤紀美枝 ●写真／酒井伸一

●レイアウト／高部友恵 ●表紙イラスト／佐藤正人 ●題字／須田照生

【印刷】株式会社須田製版

我らサポーター 12

つちや

しょうぞう

(50)

株式会社土屋ホールディングス 代表取締役社長
公益財団法人ノーマライゼーション住宅財団 理事長



会社経営、事業運営、親族の介護と、土屋さんは公私共に日々、全力疾走。だからこそ、栄養管理を徹底し健康を維持している

土屋昌三さんは、3人きょうだい。

障がいがある姉・房子さんは、

障がい者支援施設で暮らし、リハビリに励んでいる。

父・公三さんと母・博子さんは、

障がいのある人たちも安全安心、快適に暮らせるよう
バリアフリーやノーマライゼーションの浸透に尽力。

2022年7月、公三さん亡き後、

昌三さんが、その思いと事業を引き継いだ。

「親族介護のキーパーソンとなり、

福祉の現場の方々の奮闘に感謝するとともに、
介護をする人へのサポートの重要性を痛感しました。

近年、親族介護のための離職が社会問題となっています。

勤めと介護が両立できる職場環境づくりが肝要で、
そのためには健全経営維持を肝に銘じました」

コロナ禍が続く中、

房子さんとの面会がかなうのは

2カ月に1回程度。

限られた時間内で懸命に語らい、

昌三さんは房子さんの笑顔に

勇気づけられている。

写真／酒井伸一
文／大藤紀美枝



優れた福祉用具を展示する土屋ホーム
トピア・ノーマライゼーション課のショールーム(札幌市厚別区)

どんな障がいがあっても生まれ育った地域で普通に暮らせるよう、共に取り組みましょう

——「北海道手をつなぐ育成会」

知的障がいのある人とその家族、支援者で作る「北海道手をつなぐ育成会」は、「障がいがあっても普通に暮らす」という、まさにノーマライゼーションの実現に取り組んできた全道組織です。長年にわたる活動の成果や課題を伺うとともに、役員の皆さんに経験談を語っていただきました。

取材・文／大藤紀美枝

当事者、保護者、支援者が連携

病気になったりケガをする
と、障がいのある人のさまざま
な困難の一端を実感します。ま
た、親族などの看病や介護を
すると、障がいのある人を支
える人の苦勞がしのばれます。

当事者でなければわからない
困難は多々ありますが、正
しい知識や経験をおして他
者を思いやり、サポートする
ことは可能です。

地区―都道府県―全国と組
織的につながる「手をつなぐ
育成会」は、知的障がいのあ
る子の保護者、教育・医療・

福祉・行政等に携わる人、地
域の人などが参加する、広い
意味での親の会。精神薄弱児
育成会が結成された1952
年以來、手を取り合って教育・
福祉・就労などの施策の整備・
充実を求めて活動し、多くの
成果を上げています。

北海道手をつなぐ育成会の
佐藤春光会長(白老町在住)に、

全国、全道の歩みを伺うと。
「知的障がいのあるお子さん
を持つ3人のお母さんによつて、
東京で始められた運動体が、
手をつなぐ育成会の出発点。
障がいのある人や家族に対す
る偏見や差別が大きかった時
代に、使命感に燃え問題解決
に取り組む人たちが中心に
なつて全国的な組織が誕生し
ました。

北海道においては、1955
年8月に北海道精神薄弱児育
成会が創立。初代会長に北大
教育学部教授の城戸幡太郎氏
が就いたように、多くの教育
関係者や支援者に支えられて
のスタートでした。それは今
も変わりません。

現在、道内の地区育成会(親
の会)の総数は81。障がい児
(者)の保護者が中心になつて



「北海道手をつなぐ育成会」役員会に集った、左から樋口賢治事務局長、長江睦子副会長、佐藤春光会長、畑中三岐子副会長(2023年1月6日、かでの2.7にて)

いる会、社会福祉協議会や学校に事務局が置かれている会など、名称も形態もさまざまですが、『どんな障がいがあっても、生まれ育った地域で普通に暮らしたい』という当事者や保護者の声を実現する組織として地道な活動を続けています」

不安や悩みを 仲間に話し支え合う

佐藤会長が言う「地道な活動」として、真つ先に挙げられるのは、手をつなぐこと。

知的障がいのある子どもの保護者は、多くの不安と悩みを抱えています。ですから手をつなぐ育成会は、「まず、不安や悩みを仲間に吐き出して、話し合い支え合いましょ」と呼び掛けます。

北海道手をつなぐ育成会の畑中三岐子副会長（帯広市在住）は、知的障がいと自閉症を併せ持つ長男の小学校入学を機に手をつなぐ育成会に入会。40年以上、熱心に活動を続けています。その原点は、「障がいのある子どもを持つ親同士の共感と励まし」にあると言います。そして、次のように語ります。

「息子は言葉が出ず、行動も変わっていました。どこで、誰に尋ねても原因がわからず、ひたすら泣いていました。当時は、自閉症がどういふものなのか、世間はもろろん、医療や保健の専門家にも知られていなかったんです。

1975年に帯広児童養育センターができて、『発達に問題がありますね。ここはそういう子を支援するところですよ』と言っていたいたときは、希望が見えた気がしました。また、併設する保育所で発達に障がいのある子どもを持つお母さんたちと出会い、『うちも、そうだよ』『こういうとき、困るよね』『だけど、こういうこともあるよ』と話すことで、ものすごく救われました。手をつなぐ育成会に入会して活動し、共感と連携がいかに大事であるか痛感しています」

必要な制度や支えを 実現するために行動

「障がいがあるからこそ、行き届いた教育を受けさせたい」というのが、保護者共通の思いですが、障がいのある子ども（人）を受け入れるには、施設・設備などハード面と専

門技能を持つスタッフなどソフト面が共に調っていないければなりません。

障がい重たければ重たいほど、身近なところに学びの場がないという現実が、常に立ちまわっています。

全国の手をつなぐ育成会は、「近くの学校に通わせたい」と願う保護者を、特別支援学級の開設を関係部署に働き掛けるなどして支援しています。

北海道手をつなぐ育成会の長江睦子副会長（札幌市在住）は、自閉症の長男が小学校に入学するに当たり、校区内の小学校にみずから掛け合って、特別支援学級開設を実現させました。

「長男の上に娘が二人いて、娘たちが通う小学校には特別支援学級がなかったの、息子が学齢期を迎える前に、学校や教育委員会に特別支援学級の開設を願いました。『仲間が何人かいると作りやすい』と助言してくれる人もいました。が、校区のどこに障がいのある子がいるか、わかりません。一人で何度も掛け合い、開設にこぎ着けました。

息子のためだけでなく、見た目では障がいかわからない子どもがいることを知っても

らいたいという思いが強かったですし、PTAの役員をやっていた、先生たちと交流があったことも効を奏したと思います」と長江副会長。

佐藤会長もまた、特別支援学級の開設に奮闘した経験を持ち、次のように語ります。

「私は、元々教員で、白老小学校ことばの教室に着任したことで、障がいのある子どもや親御さんたちと直接関わり、置かれている状況が厳しいものであることを知りました。

当時、白老町で特別支援学級がある学校は、小学校も中学校も1校のみ。校区の学校に特別支援学級がなければ、きょうだい別々の学校に通うことになりました。

親御さんと一緒に『全ての子どもが歩いて通える学校に』と運動し、3年後、町内の小・中学校全校に特別支援学級が置かれました」

現状を改善するには、知恵とパワーが必要です。北海道手をつなぐ育成会は、「どんな障がいがあっても、生まれ育った地域で普通に暮らしたいという願いをかなえるために、私たちはどんな制度や支えが必要なのか考え行動し、次の世代のために声を出し続けま

す。仲間と手をつないで踏み出す一歩が、我が子の明るい未来につながっていきます」と広く呼び掛けます。

働きたい人が 働ける場を作る

障がいのある子どもに「行き届いた教育を受けさせたい」、そして「仕事をして自立できるようにしてほしい」というのが親心です。

全国の手をつなぐ育成会は、

一般社団法人 北海道手をつなぐ育成会

1955年、北海道精神薄弱児育成会（通称：手をつなぐ親の会）創立。その後、改称し社団法人に。2012年、一般社団法人北海道手をつなぐ育成会に改称。現在、道内10ブロック（81地区育成会）を束ねる。会員は約5千人（賛助会員含む）。

札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2.7 4F
TEL:011-251-0855 E-mail:doikusei@air.ocn.ne.jp
URL:http://hokkaido-ikuseikai.com/ 月～金曜日:9時～17時

「働きたい」という思いを実現するために、みずから事業所を立ち上げ、障がい者を支える職親会との協力で、就労への道を切り開いてきました。優先調達推進法や雇用率アップなど、障がい者の雇用促進に向けた施策も提起し続けています。

北海道において、手をつなぐ育成会の関連事業所は49を数え、それぞれ特色ある活動をしています。

一例を挙げると、畑中副会長が所長を務める「ワークセンターはまなす」は、帯広市手をつなぐ育成会が設置・運営する就労継続支援B型事業(※)。



帯広市手をつなぐ育成会の通所事業所「ワークセンターはまなす」の縫製作業の様子

約25人の利用者が、木工作業縫製作業、下請け作業、清掃作業に励み収入を得ています。「当事業所は、関係機関やボランティア団体の支援を受け、ランティア団体の支援を受け、『地域の中で働く場』として誕生しました。利用者さん一人一人の個性に合わせた支援を行い、親御さん、指導員が一丸となつて困難を一つ一つ克服し、技術力や仕事ぶりを褒めていただくにまでになりました」と畑中副会長は目を細めます。

また、札幌市常設販売所運営補助事業により、札幌市手をつなぐ育成会が店舗運営する「元氣シヨップいこーる」は、道内約170カ所の障がい者

の作業所および施設で作られた作品(製品)を展示・販売するアンテナシヨップ。食品、日用品、手工芸品、木工品、布製品など、取り扱う品目は多彩にして豊富です。

札幌市手をつなぐ育成会の会長でもある長江副会長は、「店長がリーダーシップを発揮して、しっかり運営してくれています。2月1日、リニューアルオープンしたので、ぜひ、のぞいてみてください。場所はJ R札幌駅西コンコースです」とPRします。

※就労継続支援B型…国の就労支援サービスの一つ。障がいがあり、一般企業に雇用されることが困難な人などに対し、雇用契約を結ばずに生産活動の機会を提供するとともに、就労訓練の支援を行う。

活動成果をアピール
自然な入会を促す

北海道手をつなぐ育成会は、今夏、設立68年を迎えます。

「一時期は道内の自治体の7〜8割に地区育成会がありました。近年は役員のなり手不足、会員の高齢化、新規会員の減少などにより、毎年、一つ、二つと閉会していつていまして」と、樋口賢治事務局長(千

歳市在住)は現況を語ります。

高齢化は社会問題であり、役員のみならず手不足はPTAでも町内会でも深刻化しており、新規会員の減少は多くの団体で見られるところ。このように時代にあつて、組織を維持し活動の意義をより多くの人に知ってもらうため、北海道手をつなぐ育成会では、「困ったとき、悩んだとき、同じように困ったり悩んだりした先輩や仲間からアドバイスがもらえる」「児童扶養手当、療育手帳、障害年金、さまざまな福祉サービス、障がいのある子どもの進路や自立に関する情報が得られる」など、各媒体で「入つてよかった」という声を紹介しています。

また、各地区育成会が、それぞれの手法で会員募集を行つており、札幌市手をつなぐ育成会では、日頃の悩みを話し、いろいろな相談にも乗る「おしゃべりサロン」が入会のきっかけになればと考えています。

同サロンは、障がいのある子どもを保護者を対象に、育成会活動センターや区民センターなどで、月1回開催しているもので、会員以外の参加もOK。参加費は無料。多忙な

長江副会長もできる限り「おしゃべりサロン」に参加し、悩みごとの相談に乗っています。

役員の方々のそれぞれの思い

前述のとおり、北海道手をつなぐ育成会の役員は、皆さん人生経験豊かです。これまでの歩みと印象深い出来事を語っていただきました。

その人の一生を支える 仕組みづくりが大切

一般社団法人
北海道手をつなぐ育成会

会長 佐藤春光さん



(一般社団法人 全国手をつなぐ育成会連合会 理事 北海道ブロック長、しらい障がい者と手をつなぐ会 副会長、社会福祉法人ホープ常務理事)

1990年、白老小学校ことの教室の担任教師に着任した私は、そこで障がいのあ

る児童とその保護者の厳しい現実を痛感するとともに、同僚二人の深い思考と人間味あふれる行動に胸打たれました。同僚二人は町職員で、障がいのある子どもの幼児期から学童期・青年期・成人期と見守り続けた経験から、人生という長い時間軸で捉える重要性を説き、障がいのある児童の保護者に心を寄せ、児童一人一人の将来を案じ続けていたのです。

白老地区ことばを育てる親の会の事務局長だった私が、役員のなり手がなく危機にひんした白老町手をつなぐ育成会（現・しらおい障がい者と手をつなぐ会）を引き受けることになったのも、尊敬する同僚の「手をつなぐ育成会は、その人の一生に関わる親の会」との言葉が耳に残っていたからにはほかなりません。

障がいのある人の一生を支援しようという決意し、会長として白老町手をつなぐ育成会の再出発を図ったのが第1段階、親御さんたちと一緒に障がいのある人が働く場として地元で作業所を作ったのが第2段階、障がいのある人が、その仕事で食べていけるようになるには、どうすればよいか考

えて、社会福祉法人の作業所に移行したのが第3段階、その後、グループホームを開設し、そこを終の住み家として暮らし、安らかに旅立っていった人をみんなで見送ることができました。

知的障がいと自閉症の息子に育てられました

一般社団法人
北海道手をつなぐ育成会
副会長 畑中三岐子さん



（特定非営利活動法人帯広市手をつなぐ育成会 会長、ワークセンターはまなす 所長）

息子は乳児の頃から上の娘と反応も行動も随分違っていました。障がいのある子に接したことがなかったのですが、どうして違うんだろう。どうやって育てていけばいいんだろうと思ひ悩みました。

相談に行った先で、「お母さんとの関係をもっと密にして、

愛情をもって育てたらいかげすか」と言われ、やり切れない思いをしたこともあります。ところが、息子が知的障がいと自閉症を併せ持っているとの診断は、抵抗なく受け入れられることができました。難問が解けた気がしたんです。手をつなぐ育成会に入ってから仲間を得たことで活路が開け、「希望する全ての子に高等支援学校を」といった運動に取り組みむことで貴重な経験をし、会長や所長という責任あるポストを任せられ、社会福祉協議会にも関わることで、地域には障がい者に限らず、高齢者、生活困窮者など、さまざまな



課題解決策を語るほどに言葉に熱がこもる

助けを必要としている方がいることを知り、たくさん勉強させていただきました。

未熟な親がここまで成長できたのも、人を思いやる気持ちがあったのも、障がいのあつ息子のおかげだと思います。

息子は、思春期に人の言葉に強く反応してパニックを起すようになったため、心の平安が保てる環境の施設で暮らしています。コロナ禍で思うように会えませんが、夫も私も息子が一時帰宅できる日を心待ちにしています。

自閉症の息子と二人三脚で挑戦！

一般社団法人
北海道手をつなぐ育成会
副会長 長江睦子さん



（一般社団法人 札幌市手をつなぐ育成会 会長）

自閉症の子どもは特定の手順を繰り返すことにこだわ

ので、普段のルーティン外の行事が苦手です。幼稚園に通っていた頃の息子は、運動会の練習のときは、練習に参加せず、公園のタンポポをひたすら摘んでいました。

小・中学校時代もマイペースでしたが、先生やクラスメートに見守られ、自身が選択した小樽市高等支援学校の3年間は寄宿生活を体験しました。

私は仕事を持ち、役員を複数引き受けているので、家事や育児に手をかける時間が限られます。ですから、息子にも早い時期から、ご飯支度を含め自分のことは自分でできるように練習してもらいました。

障がいがある子のお母さんの多くは、何かにつけ「この子は、できない」と想定しがちです。でも、できるよう工夫して挑戦し、失敗したらやり方を変えて挑戦し続けたら、少しずつ進歩します。そして、できることが増えるたびに、その子の世界が広がっていきます。

息子は高校を卒業後、清掃の仕事に就き、早番のときは、自分で朝5時に起きて朝食を食べ、始発の地下鉄に乗って出社しています。

また、息子は乗り物に乗っていたとしても一度通った道

はしっかりと覚えているので迷うことがありません。歩くことも大好きです。彼の夢は、北海道を歩いて一周すること。勤務があるので、今はかまいませんが、いつか実現できるように、私なりに応援したいと思います。

児童、保護者を支え 応援し続けます

一般社団法人
北海道手をつなぐ育成会



事務局長 樋口 賢治さん

(千歳市手をつなぐ育成会 副会長)

1978年に新卒の教員として小学校に着任するや否や、校長に「特殊（特別支援）学級の担任のなり手がいないので、お願いします」と言われ、とても驚きました。障がい児教育は、経験豊富な教師がするものと思っていたからです。

新学期、5人の子どもたち

との勉強がスタート。思うように教えられずにいましたが、保護者からの子どもに関する情報が授業づくりのヒントになりました。保護者が私の「先生」になってくれたのです。

ある日、自閉症児を持つ一人のお母さんが「先生、この子を抱いて何度も線路に立っただんですよ」と語ってくれました。当時は、「障がいの原因は親の育て方」であるとか、「子育ては全て親の責任」という考えが強かったです。

しかし、好んで障がいを受けた人はいません。どう考えても個人の問題ではないのです。いわれない偏見や差別の中で、耐えて頑張るお母さんの役に立ちたい、応援しなければと感じた瞬間でした。

その後、赴任した先々で担任として、管理職として、行政の一員として特別支援教育に携わらせていただき、今の自分があります。

かつて、新米教師だった自分を粘り強く育ててくれた保護者の方々にいつか恩返しをしたいと、ずっと願っていました。ところが何と、今も新しい学びをいただいているではありませんか。感謝の気持ちは強まるばかりです。

「北海道手をつなぐ育成会」

あなたの近くの「連絡協議会」と「地区育成会」所在地

石狩ブロック

石狩地区手をつなぐ親の会連絡協議会
(石狩市:TEL.0133-77-5305)
札幌、江別、千歳、恵庭、石狩、北広島

空知ブロック

空知手をつなぐ育成会連絡協議会
(岩見沢市:TEL.0126-24-1621)
岩見沢、三笠、赤平、滝川、砂川、深川、芦別、奈井江、上砂川、栗山、妹背牛

後志ブロック

後志手をつなぐ育成会連絡協議会
(岩内町:TEL.0135-62-0289)
小樽、蘭越、倶知安、共和、岩内、古平、仁木、余市

渡島ブロック

渡島松山地区手をつなぐ親の会連絡協議会
(七飯町:TEL.0138-86-7118)
函館、北斗、七飯、鹿部、森、八雲、長万部

上川・道北・留萌ブロック

上川地区手をつなぐ育成会連絡協議会
(旭川市:TEL.0166-37-9010)
旭川、士別、名寄、和寒、美深、東神楽、当麻、愛別、上川、美瑛、中富良野、留萌、天塩

胆振ブロック

胆振地区手をつなぐ育成会(親の会)連絡協議会
(苫小牧市:TEL.0144-37-9678)
室蘭、苫小牧、登別、伊達、白老、安平、むかわ(穂別)、厚真

日高ブロック

日高管内手をつなぐ育成会連絡協議会
(新ひだか町:TEL.0146-42-3070)
門別(日高)、新冠、新ひだか、様似

十勝ブロック

十勝地区手をつなぐ育成会連絡協議会
(中札内村:TEL.0155-68-3108)
帯広、音更、更別、大樹、豊頃、本別、鹿追、新得、清水、芽室

釧路・根室ブロック

釧路管内手をつなぐ育成会連絡協議会
(白糠町:TEL.01547-2-4136)
釧路市、標茶、白糠、厚岸、別海

オホーツクブロック

オホーツク地区手をつなぐ育成会(親の会)連絡協議会
(北見市:TEL.0157-51-1604)
北見、網走、紋別、遠軽、美幌、津別、斜里、清里、大空

◎次世代を支える社会福祉法人の取り組み―「ホープ」(白老町) 障がいがあっても地域の一員として 生き生きと働き暮らせるようサポート

みんなが手をつなぎ 誕生した社会福祉法人

北海道手をつなぐ育成会・会長佐藤春光さんは、しらい障がい者と手をつなぐ会(前身は白老町手をつなぐ育成会)の副会長であり、社会福祉法人ホープの常務理事でもあります。

「ホープ」は、白老町手をつなぐ育成会会員や支援者が中心となって、2004年に設立。「障がいのある人とその家族が、生まれ育った地域で生き生きと生活するための助け」を第一の目的として、障がいのある人の精神的自立と

経済的目的を支援する事業を展開しています。

佐藤さんが取り組む「その人の一生を支える仕組みづくり」は、各地においても大いに参考になるところ。1月27日、「ホープ」に佐藤さんを訪ね、事業の近況と抱負を伺いました。

障害年金と合わせ 自立できる収入を

「ホープ」の拠点施設「フロンティア」は、1997年、他の作業所の一角を借りてスタート。現在、軽作業・創作活動・余暇活動を行う生活介護に約20人、

生産活動や一般就労に必要な訓練を行う就労継続支援B型に約20人が通い、非常勤職員を含む約40人が勤務しています。「フロンティア」では、通所による就労や生産活動の機会を提供するとともに、年金と合わせて自立できる賃金を目指しています」と佐藤さん。

利用者は、お菓子や野草茶の製造・販売、製本や印刷、売店、施設外就労(※)、レストラン「ポロニ」(JR白老駅前)やカフェ「リムセ」(ウポポイ内)での接客などから、自分で選んで就労しています。

「ホープ」の関連事業所は、白老町萩野地区を中心に登別にも(計3カ所)。グループホームも4棟運営しています。「私たちは、障がいのある人が、親亡き後も仕事を持って食べていける仕組みをつくるため、まず社会福祉法人化を

職員の待遇を改善 より魅力的な法人に

「ホープ」の関連事業所は、白老町萩野地区を中心に登別にも(計3カ所)。グループホームも4棟運営しています。「私たちは、障がいのある人が、親亡き後も仕事を持って食べていける仕組みをつくるため、まず社会福祉法人化を

回り、就労場所の近くに住む場所をと、廃業したホテルを買い取って介護サービス包括型のグループホームを開設しました」と佐藤さん。

さらに就労場所、住む場所の拡充を図るため、佐藤さんは寄付を募り、国や自治体に補助金を申請し、友人・知人ももちろん、職員や支援者のツテをたどって空き家探し、土地探しに奔走。多くの人が協力してくれ、「土地を売ってもいい」「土地を貸すよ」と言ってくれる人が相次いで現れました。

「ありがたいことで、おかげで、新たな作業所やグループホーム3棟を開設することができました」と佐藤さんはしみじみ語ります。

教員を早期退職して福祉法人の運営に心血を注いできた佐藤さんが、特に力を入れてるのが、「よい法人と一緒に作る」という視点で物事に取り組む職員を育てること。そのためには待遇改善が肝要と、「ホープ」の理

念に「誇りを持てる賃金を職員に支払う」を加え、内外に意思表示しています。

「障がいのある人に寄り添い、一生懸命働く善良な人が尊重される法人であれば、おのずと人が集まってきます。そうあり続けるために、一層頑張ります」と佐藤さんは力強く語ります。

※施設外就労…地元企業から請け負った作業(清掃、農作業、売店など)を企業内で行い、社会経験を積む場にもなっている。

社会福祉法人 ホープ
 白老郡白老町字萩野310-110
 TEL&FAX:0144-83-3537
 E-mail: happy-job-frontier@bz01.plala.or.jp
 URL: http://happy-job-frontier.org/



多機能型事業所「フロンティア」の外観



「フロンティア」ではお菓子や野草茶などを製造・販売。上はお菓子の製造風景



社会福祉法人ホープの関連事業所マップ

1 フロンティア 2 ほのほの荘 3 グループホームおおぞら・こもれび 4 ホームそよ風
 5 売店エスパス 6 売店えがお 7 レストラン「ポロニ」 8 カフェ「リムセ」
 9 ショップ「イレンカ」 10 フロンティア登別 11 ふれあいホーム

発達障がいのある子どもを 支援するデイサービスの内容は？

札幌市北区の児童デイサービス「コンチエルト」には、発達障がいのある子や発達に不安がある子が通っています。菊池洋子統合施設長に開設の経緯と取り組みを、保護者の方に通所の感想を伺いました。

取材・文／大藤紀美枝

父母の願いを デイサービスで実践

—— 菊池さんは、長きにわたって知的障がいや発達障がいのある人たちを支援してこられました。が、「コンチエルト」は、どのようにして誕生したのですか。

菊池 札幌市手をつなぐ育成会(※)の副会長を務めていた当時、会員の方から、「自分たちが子育てしていた頃は、自閉スペクトラム症などについてよくわかっていなくて、『母親の育て方が悪い』などと言われ、大変つらい思いをした。自分の経験を生かして、もう一回、子育てに関わってみたい」と

いう声が上がったんです。

手をつなぐ育成会のお母さんやお父さん、支援する方々の「子どもたちが個性を大切に、好きなこと・得意なことを楽しみながら社会と調和していつてほしい」という願いを、児童デイサービスの形態で実践しようと思いい、2010年に「コンチエルト」を開設しました。

——「コンチエルト」の児童デイサービスの基本方針を教えてください。

菊池 発達障がいのあるお子さんや発達に不安・困難を感じているお子さんに対し、マンツーマンを基本とする療育

を行います。

幼児は、基本的な生活習慣の自立や心身の発達を目指しながら、集団の楽しさを理解する感性を培います。また、小・中・高校生は、個別の学習指導と集団生活の楽しさや集団のルールを学びます。

プログラムの一例を挙げますと、「コンチエルト／幼児クラス」は、運動や音楽を組み込んだ2時間の療育で、楽しく遊びながら集団での課題と個別の課題に取り組みます。

—— マンツーマンを重視する理由は。

菊池 発達障がいのあるお子さんの多くは、集団行動が苦手です。でも、いつも寄り添ってくれる「自分の先生」と一緒にあれば、不安を感じることもなく集団の中に入っていくことができます。

当事業所のスタッフは療育・教育・福祉の有資格者(臨床心理士、教員、社会福祉士、作業療法士等)と、発達に障

◎発達障がいとは

生まれつき脳の働き方に違いがあり、幼児のうちから行動面や情緒面に特徴がある。そのため、養育者が育児の悩みを抱えたり、子どもが生きづらさを感じたりすること多い。代表例として、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症 (ADHD)、学習症 (学習障害) 等がある。

◎児童デイサービスとは

障がいのある子どもを支援する通所事業所の通称。未就学児を対象とした「児童発達支援」、就学児を対象とした「放課後等デイサービス」などに分化される。利用するに当たり、自治体に障がい福祉サービスの支給申請を行い、決定後、利用する施設と契約を結ぶ。利用者負担額は、所得に応じ上限が設定されている。

楽しく遊んで 日常生活を習得

—— 今日(1月11日)は、特別プログラムだそうぞう。

菊池 はい。幼稚園や小・中学校の冬休み期間は、「楽しさ」に重点を置いた「ふゆプロ」を組んでいます。今日の幼児クラスは、「リズムあそび」で

す。ひらひら棒(遊具)を自分で作って、音楽に合わせてそれを振りながら行進したり、

—— 音楽が流れています。ピアノの生演奏ですね。

菊池 ピアノの先生やピアノが得意な方がボランティアで弾いてくださっています。「座りましょう」「片づけましょう」「手を洗いましょう」というときは、それぞれ決まった曲が流れるので、お子さんたちは曲を聴き分け、自分の判断で行動します。

—— みなさん、はつらつと行動していますね。
菊池 ええ。叱られて何かを



特定非営利活動法人
発達支援サポーターズコンチエルト
代表・統合施設長

菊池 洋子さん

教育臨床心理学、社会福祉学を修めて公職に就き、2009年NPO法人を設立。障がいのある子どもたちの療育と本人や家族の相談支援を行う傍ら、教育や福祉の関連団体の委員として活動。

※札幌市手をつなぐ育成会：知的障がいのある人とその家族、支援者による組織。



バルーンアート剣を手に「エイ、エイ、オー！」



ひらひら棒を振りながら「自分の先生」と行進



ひらひら棒(遊具)づくりからスタート

するといろいろではなく、わかる仕組みの中でできて、褒められて、どんどん自信がついていきます。ルールを理解し、自分でできるように工夫として、音楽のほか、色や絵柄などを活用しています。

れない状態です。お友達とのやり取りや道具の貸し借りがわからず、気に入ったものを抱え込んでしまったり、「片づけましょう」と声掛けしても片づけることができません。ところが、何回か通所するうちに、「片づけましょう」の曲が流れ、声掛けすると、自分で速やかに片づけられるようになります。

——何をしているときも楽しそう。

菊池 お子さんたちに楽しんでもらうには、まず、私たちが楽しまなければ……。お子さんにとって「自分の先生」は、指導してくれる人ではなく、一緒に遊んでくれるお友達。幼いときから療育の中で楽しく遊んでくると、日常のルールが無理なく身につく、その後も困りません。小学校に入學し特別支援学級で学ぶ子もいれば、通常の学級で学ぶ子もいます。その後、大学に進学して研究者になる人もいます。

自分を認めてくれる場所が人生の土台に

——こちらは保護者が送り迎えしているのですね。

特定非営利活動法人 発達支援サポーターズコンチェルト

2009年に設立。3施設で、児童発達支援、放課後等デイサービス、指定特定相談支援、指定障害児相談支援を行っている。

札幌市北区北23条西5丁目2-31 Jビル2F
TEL: 011-788-6026

E-mail: concerto@samba.ocn.ne.jp/

URL: http://www.concerto.or.jp

月～金曜日: 9時30分～18時

土曜日: 9時30分～12時



「コンチェルト」はJビルの2階に

◎児童デイサービス「コンチェルト」

クラス	対象	曜日/時間	定員
幼児クラス	未就学児	月～金/10時～12時	各5人
ランランクラス	小・中・高	月・水・木・金/15時～17時	各5人
アートクラス	小・中・高	火/15時～17時	5人
サタデークラス	小・中・高	土/10時～12時	10人

◎児童デイサービス「コンチェルト第2」

クラス	対象	曜日/時間	定員
幼児クラス	幼稚園や保育園との並行通園児等	月～金 13時～15時	各5人
スタディクラス	小・中・高	月～金 16時～18時	各5人

※個別対応の療育も可能。

◎相談室「リズム」

札幌市内に住む障がいのある人やその家族の生活、教育、療育、福祉サービス等の相談に応じている。

札幌市北区北23条西5丁目2-31 Jビル502号

TEL: 011-788-9952 E-mail: rhythm@concerto.or.jp

月～金曜日: 9時30分～18時

菊池 はい。当事業所は送迎車を持たず、お子さんをお預かりするのも短時間(2時間)です。そこを踏まえ選んでくださる保護者の方は、療育内容とともに、送迎のたびにお母さん・お父さんと対面でお話して、互いの理解を深めていることを評価してくださっているように思います。

——発達障がいのお子さんの保護者の方へメッセージを。
菊池 私たちは、お母さん・お父さんを第一に、子育てに参加させていただいているスタッフで療育に携わっています。お子さんには、「自分の先生」と一緒に勉強をしたり、お友達と活動をする中で、社会のいろんなことを学んでいくってほしいです。自分を認めてくれる場所があることが、

生もいます。療育実習はもちろん、大学も学部も異なる学生との出会いから得るものも大きいのではないのでしょうか。

お子さん(いずれも2歳児)を 迎えに来た保護者の声

- ▶子どもをしっかり見てくれ、自然に教えてくれるところがよい。
- ▶有資格者がマンツーマンで付いてくれるのが何より。椅子に座っていられなかった子が、座っていただけるようになった。
- ▶週2回、最初から笑顔で通っている。「コンチェルト」で覚えた手遊びを家でも楽しそうにやっている。

自分らしく生きていく土台になります。ノーマライゼーションに理解ある地域の人や企業も応援してくれています。

ここが知りたい(2)

「子ども相談支援センター」は、 どんな相談に乗ってくれるの？

児童生徒や保護者が抱える悩みや心配事の相談に乗ってくれる「子ども相談支援センター」。その概要と利用法について、北海道教育庁学校教育局の加藤秀和指導主事に伺いました。

取材・文／大藤紀美枝

悩みを聴いて子どもや保護者をサポート

「子ども相談支援センター」は、どのような目的で開設されたのですか。

加藤 北海道教育委員会では、かねてより北海道立教育研究所において相談業務を行ってまいりました。そうした中で、関係機関との連携等を図り、児童生徒や保護者が直面する問題の解決支援をより迅速・丁寧に行うため、2015年に「子ども相談支援センター」を開設しました。

「どんな相談を受け付けているのですか。」
加藤 「友達とけんかした」「いじめられている」「学校へ行きたいけど行けない」といった児童生徒からの相談、「育児で悩んでいる」といった保護者からの相談など、さまざまな相談を受け付けています。お孫さんのことを心配する祖父母の方からの相談にも応じて

います。

対応する相談員は、学校教育やカウンセリ



北海道教育庁学校教育局
生徒指導・学校安全課
指導主事
加藤 秀和さん

グの経験者などです。匿名でもご利用いただけます。誰が・どこに・何を相談したかなど秘密は厳守します。また、相談者から「関係機関に伝えてほしい」という要望があれば、関係機関につなげて問題解決を図ります。

電話・メール・来所
選んで相談

「子ども相談支援センター」の相談窓口は。

加藤 電話相談は365日・24時間対応。フリーダイヤルなので通話料は無料です。メール相談も365日・24時間受け付けていますが、返信に時間がかかることがあります。夜間や土・日・祝日などのメールにはすぐに返信できないので、

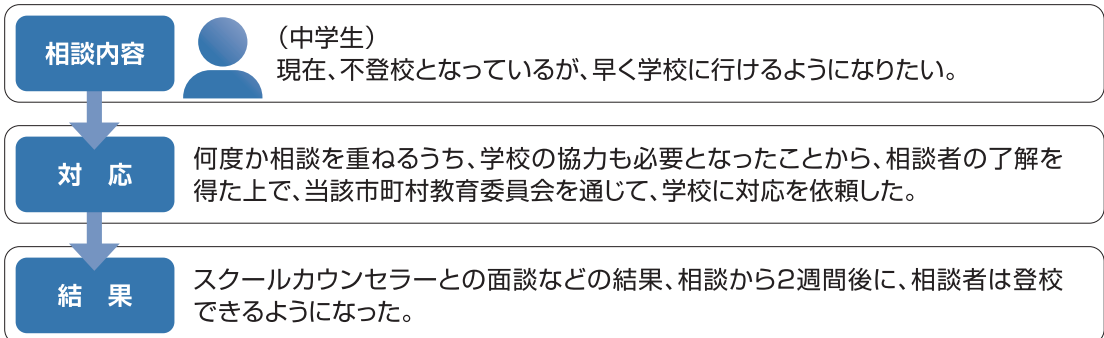
お急ぎの場合は電話相談をご利用ください。

来所相談をご利用の場合、事前予約が必要です。電話相談と同じ番号に電話をかけ、相談日時を決めてください。

電話、メール、来所とある中で、どの形式の利用が多いですか。

加藤 やはり電話相談です。それは開設当初から8年経った現在も変わりません。2021年度の受理延べ件数は2934件で、内訳は電話が2531件、メールが396件、来所が7件でした。月別では、9月が最も多く、次に6月が多くなっています。

◎「子ども相談支援センター」への相談事例（プライバシーを守るため加工）



◎2021年度の受理案件数（1,876）を基にした相談内容の内訳

① 教職員との関係(21.7%)	② 家庭環境(19.7%)	③ 友人関係(17.2%)
④ 心身の健康・保健(13%)	⑤ 不登校(9.1%)	⑥ 学業・進路(6.3%)
⑦ いじめ問題(4.1%)	⑧ 発達障がい等(2.1%)	⑨ 児童虐待(0.6%)
⑩ 非行・不良行為(0.3%)	⑪ 暴力行為(0.2%)	⑫ その他(5.7%)

メール相談を除く受理実件数(※)から、相談の対象となっている子どもの内訳を見ると、小学生、中学生、高校生、乳幼児の順に多いです。

——どんな相談が多いですか。

加藤 本人からの相談においては、小・中・高校生共に「友人関係」の悩みが最も多いです。小学生の場合、それに「家庭環境」「心身の健康・保健」が続きます。中・高校生は「心身の健康・保健」「家庭環境」の順になっています。

保護者等の相談においては、小・中・高校生共に「教職員との関係」が最も多く、小学生は「家庭環境」「友人関係」と続き、中・高校生は「家庭環境」「不登校」の順になっています。

相談内容は、過去と比較してもさほど変わっていません。近年は、件数は少ないですが、「性的マイノリティー」に関する相談もあります。

道内の児童生徒に 窓口紹介カードを配布

——「子ども相談支援センター」があることを、どのように広報していますか。

加藤 北海道教育委員会のサイトにアップし、リーフレットを配付しています。

また、年度ごとに「子ども相談支援センター」の趣旨と電話番号を記載した窓口紹介カードを札幌市を除く（行政区分の関係）道内の各学校に送付し、児童生徒に渡していただいています。小学校低学年用、小学校中・高学年用、中学生用、高校生用と4種類用意し、それぞれ異なるキャラクターが描かれています。毎年、キャラクターを公募しており、そうしたことから、「子ども相談支援センター」に親しみを感じていただければと思います。

——児童生徒、保護者を支援する上で留意していることは。

加藤 安心して気軽に相談できることが第一で、子どもに対しても人格を尊重し、相談者一人一人に寄り添うことを旨としています。

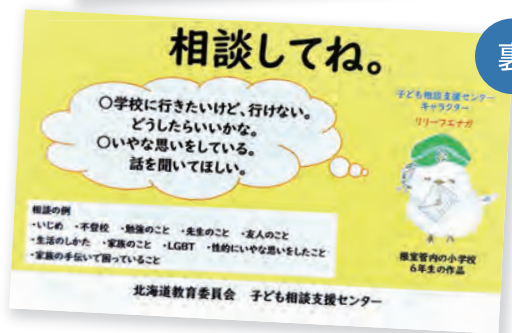
児童生徒が安全・安心、健やかに成長していく上で、家庭と学校が同じ方向を見ながら進んでいくことがとても大事です。から、「子ども相談支援センター」をうまく活用していただければと思います。

※受理実件数・同一相談者からの同一相談対象者に関する同一相談内容について、複数回受理しても1件でカウント。

表



裏



「子ども相談支援センター」が配付しているカードは4種類。写真は「小学校中・高学年用」の表裏。

気軽に相談を

北海道教育委員会「子ども相談支援センター」

対象 | 児童生徒・保護者など

- 相談の例 |
- いじめ ●不登校 ●学業
 - 進路 ●教師との関係
 - 友人関係 ●生活全般
 - 親子関係 ●ヤングケアラー
 - 育児 ●しつけ ●性的マイノリティー
 - 性被害(嫌な思いをしたこと) 等

あなたの悩みを
聴かせて
ください。

名前を
言わなくても
相談できます。

秘密は
守ります。

相談を
専門とする人が、
悩みを聴いて
くれます。

相談窓口 | 電話相談 **0120-3882-56** (通話料無料)

※毎日24時間対応。※「24時間子供SOSダイヤル」**0120-0-78310** (通話料無料)でも対応。

メール相談 **sodan-center@hokkaido-c.ed.jp**

※返信はパソコンからのため、パソコンからのメールを受信できる設定にして送信を。

来所相談 **子ども相談支援センター** (札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館8F)

※要事前予約。フリーダイヤル**0120-3882-56**へ。※相談時間は10時～16時(平日のみ)。

URL: <https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssa/ijimedenwasoudan.html>

～身体状況、用途に応じて選べる3つのタイプ～

介護・自立
サポートアイテム

3

これ
いいね!

Model F

コンパクトに折りたためるので収納はもちろん、自動車や交通機関への積み込みも簡単。



価格:¥273,000
(非課税、送料調整費別)
レンタル:¥3,840/1日(3日間レンタルの場合)

Model S

スクーター感覚で、運転を楽しみながら移動ができる。歩道での走行も可能。

価格:¥227,000～
(非課税、送料調整費別)



Model C2

介護保険のレンタルを活用できる。感覚的に動かせる操作性、抜群の回転性と走破性で、人の多い場所でも安心して使える。

価格:¥487,000
(非課税、送料調整費別)
レンタル:¥14,800/1カ月
介護保険適用:¥2,700～/1カ月



これまでのシニアカーの難点を
3つのタイプに特化させてクリア
進化型シニアカー「WHILL」
(ウィル)

高齢者にとって「移動」は大きな課題です。車は運転が不安、歩くのは年々辛くなる：そうした悩みを解決する可能性を秘めているのが「WHILL」。スクーター型、電動車いす型など、用途に応じたタイプを選んで、うんと手軽に、安全に利用できる、これぞ新たな高齢者用モビリティです。



レポート：
西村裕広

性能、デザインに優れた
進化型のシニアカー

高齢になるに従い下半身が衰え、歩行や移動が難しくなります。杖は身体への負担が大きく、車いすは自力だと取り扱いが難しいため、介助者なしだと実用的ではありません。電動車いすは自分で操作できますが、補助具のイメージが強いためか、利用をためらう人が多いようです。

そうした問題の解決を目指して開発されたのが「シニアカー」。スクーターのようにハンドルを操作して乗る補助具で、電動車いすのカテゴリに入るので運転免許は必要ありません。近距離であればバイク、自転車などの代わりとして活用できる上、はるかに気軽で安全です。

しかし、今ひとつ普及していません。サイズが大きいため収納や持ち運びが不便、乗



Model F、C2は片手で感覚的に操作できるタイプ、Model Sは両手で、より乗物感覚で操作を楽しめるハンドルタイプのコントローラーを採用。どちらも軽いタッチの操作性。

機動力が大きいModel Sは7.5cm、C2が5cm、Fで3.5cmの段差を乗り越え可能。回転半径はModel Fは78cm、C2は76cmなので、人の多い屋内などでも高い安心感。



アクセサリも充実。スマートフォンを装着できるアタッチメント、シートの後ろに装着できる杖のホルダーのほか、外出時などがあると便利な機能を必要に応じてプラスアルファが可能。



機能性だけでなく、優れたデザイン性も大きな特徴。どのタイプも豊富なカラーバリエーションから好きな色を選ぶことができます。

り入れられる場所が限られる、見た目にも電動車いす同様「補助具」という印象が強いといったことが普及の足かせになっているようです。

「WHILL」は、そうした難点を改善し、補助具というより、高齢者のための近距離モビリティと呼ぶにふさわしい進化型の移動手段です。コンパクトに折りたたみため、収納や持ち運びが容易な「Model F」、高い機動性があり乗物を楽しむ感覚でアクティブに利用できる「Model S」、介護保険でのレンタルも活用できる「Model C2」の3種類があり、身体状況、用途に合わせて最適なタイプが選べます。そのいずれも、従来のシニアカーにはなかった洗練されたデザイン。思わず「乗ってみたい」と感じてしまうのではないのでしょうか。

より安心できる充実のサポートとサービスも魅力

WHILLは購入や試乗、その他のサービス提供を、全国のカーディーラーと連携して広く展開しているのも大きな特徴です。現在、販売網は1000店舗を突破し、これからさらに拡大される予定。もし故障

や不具合が発生した際の修理への対応はもちろん、トラブルを未然に抑えるためのメンテナンスはじめ、安心して利用できるための様々なサポートサービスを、提携カーディーラーで受けることができます。また旅行先の宿泊ホテルなどで、WHILLを受け取り、返却ができるレンタルサービスもあります。滞在地でスポット的に利用できるのも、従来のシニアカーには無い行動範囲の拡大や、知らない土地、場所での移動の不安を軽減できるでしょう。

電話やネットで申し込めば試乗も可能。まずはお近くの提携カーディーラーで、乗り心地と操作性を体感してみたいかがでしょう。

～写真提供・取材協力～

ウィル WHILL株式会社

【本社】
東京都品川区東品川2丁目1-11
<https://whill.inc/jp/>

2012年に設立以来、国内だけでなく世界各地に拠点を置き、近距離モビリティ製品の開発、生産、販売、関連サービス提供を展開しています。

第27回
小中学生による
「安全・快適アイデア」
コンテスト
入賞者発表

小学生の部

当財団では、毎年、小中学生を対象に「安全・快適アイデア」コンテストを実施しています。今回は、道内17校(小学校6校、中学校11校)および4個人から495作品の応募がありました。審査結果をお知らせいたします。(記載の学校・学年は応募時現在)

審査委員長 講評
一般社団法人 北海道デザイン協議会
名誉会長 大阪 克彦
名譽会長 大坂 克彦

1次審査は私一人で行い、全応募作品の中から約3分の1を選考。コロナ禍が続いているため、2次審査は審査員が日を分けて行うこととなりました。

小学生の部・最優秀賞「多機能窓」は、「コロナ禍で換気は大仕事」ということで、雨の日でも窓を開けられるよう水をはじく網戸が付いているほか、窓をスマホアプリで外出先からも操作できる

優秀賞 [2作品]

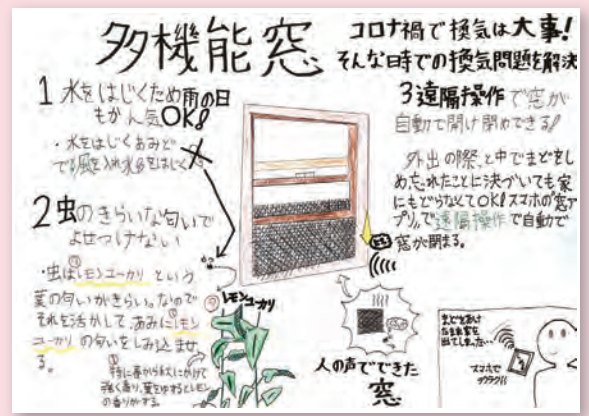
最優秀賞



「MY ULTRA SOLE」
釧路市立湖畔小学校6年
門間大明さん



「車内置き去り防止センサー」
札幌市立札幌緑小学校6年
柚原大志さん



「多機能窓」
札幌市立札幌緑小学校6年 伊藤悠吏さん

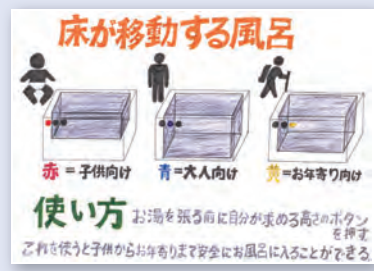
中学生の部

優秀賞 [2作品]

最優秀賞



「スノーガード」
士別市立士別南中学校2年
大前政宗さん



「床が移動する風呂」
旭川市立東陽中学校2年
今村風沙さん



「アルコールメーター」
旭川市立愛宕中学校2年 樋口晴一さん



本コンテスト入賞作品は、例年、さっぽろ地下街で展示公開しています。(今回は1月7日～9日、オーロラコーナーに展示)

すばらしいアイデアです。中学生の部・最優秀賞「アルコールメーター」は、「飲酒運転0(ゼロ)」を掲げ、アルコール成分を感知すると運転者に警告し発進できないようにする仕組みという、ルーフのピアジョッキ形警告灯で周囲に知らせるアイデアという見事です。コロナ感染、飲酒運転、車内子ども置き去りなどの防止策、視覚や聴覚障がいに対する配慮と、小中学生の社会問題に対する意識の高さや温かい心に胸打たれました。応募してくださった皆さん、ありがとうございました。

伊藤千織デザイン事務所
代表 伊藤 千織
有限会社環工房
代表取締役 牧野 准子
北海道社会福祉協議会
事務局次長 庄田 香織
札幌市社会福祉協議会
常務理事 菱谷 雅之
北海道新聞社
くらし報道部 部次長 大野日出明

優良賞 [3作品]

■佳作 [4作品]

●札幌市立札幌緑小学校6年 佐藤あさひ、高橋蒼大、堀岡未愛、八重樫来希

■特別賞 [4作品]

●札幌市立札幌北小学校3年 甲斐杏那 ●江別市立野幌若葉小学校5年 大石悠来 ●札幌市立札幌緑小学校6年 名手乃ノ葉 ●札幌市立ひばりが丘小学校6年 小林彩生

■奨励賞 [10作品]

●千歳市立北陽小学校3年 伊東 岳 ●伊達市立伊達西小学校4年 亀谷湖雪 ●江別市立野幌若葉小学校5年 斎藤すみれ、佐藤有瞭、森田七海 ●鹿追町立瓜幕小学校5年 坂本友琉瑠 ●札幌市立厚別通小学校6年 吉田桜彩 ●札幌市立札幌緑小学校6年 西山侑花 ●札幌市立ひばりが丘小学校6年 谷尾花、深澤侑聖

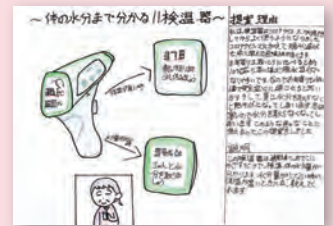
(敬称略・順不同)



「おたすけメガネ!!」
札幌市立札幌緑小学校6年
山田 凜さん



「ねこ型ロボット『キャッチちゃん』」
札幌市立札幌緑小学校6年
蓮野陽彩さん



「体の水分まで分かる検温器」
札幌市立札幌緑小学校6年
新村りんさん

優良賞 [5作品]

■佳作 [10作品]

●旭川市立愛宕中学校2年 櫻田実怜 ●旭川市立東陽中学校2年 小野 紡、上西悠太、片岡凌雅、松浦孝佑 ●岩内町立岩内第一中学校2年 林 維咲 ●士別市立士別南中学校2年 番場亮太 ●洞爺湖町立虻田中学校3年 阿部芭奈、齋藤智也、柴崎優紀乃

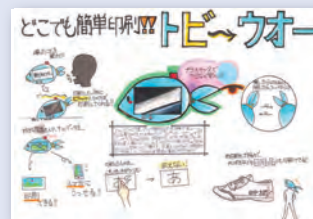
■奨励賞 [10作品]

●旭川市立旭川中学校1年 白崎勇人 ●音威子府村立音威子府中学校1年 一見 開 ●旭川市立愛宕中学校2年 中村 響 ●岩内町立岩内第一中学校2年 澤田蒼生 ●岩内町立岩内第二中学校2年 石崎 漣 ●釧路市立鳥取中学校2年 永久保杏音 ●北広島市立広葉中学校3年 田代愛結花 ●札幌市立中央中学校3年 鈴木南昊 ●士別市立士別南中学校3年 上杉沙奈 ●せたな町立瀬棚中学校3年 久代誠実

(敬称略・順不同)



「どこでも扇風機」
岩内町立岩内第二中学校2年
末廣伶王さん



「トビーウオー」
岩内町立岩内第一中学校2年
加藤夏映良さん



「マジックステッキ」
旭川市立東陽中学校2年
前島あいさん



「カロリー眼鏡」
洞爺湖町立虻田中学校3年
高橋 菫さん



「あお向けメガネ」
岩内町立岩内第二中学校2年
宮川 華さん

入賞作品は当財団ホームページ(<http://normalize.or.jp/>)でもご覧いただけます。ここに掲載のアイデアの無断使用を禁じます。お問い合わせは当発行所(P2)までお願いします。

子どももシニアも集う「多世代交流ひろば」

札幌市地域子育て支援拠点「ねっこぼっここのいえ」(札幌市豊平区)では、多世代が気軽に集って充実した時間を過ごしています。設立の趣旨と取り組み、集う人の様子などを紹介します。

取材・文／大藤紀美枝

地域に根差す 子育てサロン

地下鉄東豊線月寒中央駅から徒歩11分。北野通に面した建物の2階にある「ねっこぼっここのいえ」は、札幌市地域子育て支援拠点に指定されている子育てサロン。



楽しく語らう利用者とスタッフ。左端が太田千代代表理事

訪ねたのは土曜日の午前とあって、年齢を問わず誰でも参加できる「みんなのひろば」の時間帯。お母さんと一緒に来た幼児たちが、縦横無尽に駆け回っています。

「お子さんの元気に私たちスタッフも励まされています」と太田千代代表理事。

「ねっこぼっここのいえ」は「みんなのひろば」「おかえりひろば」「あかちゃんひろば」のほか、月1で「まなびのひろば」、若者のための「ねっこアフター」、月2で学習支援「学さぽ」(認定NPOカコタムと共催)を開催。常駐スタッフ(おおむね2人)がサポートします。

「ねっこぼっここのいえ」は、「子どもが人と関わりの中で希望を持って育つ地域を作ろう」と、月寒地区にある幼稚園・教会・保護者などが協力し2007年にスタート。2018年に

NPO法人となり、園庭も含め広い空間を利用して、さまざまな取り組みを行ってきました。

そうした中、建物の建て替え等、諸般の事情で移転することになった。地域に根付いたサロン活動を続けるため、同じ地域内で家探しをし、2020年6月、現在の場所で再スタートを切りました。

「以前は何十人も集まる催しがありました。スペースの関係上、ここではできません。近所の方に場所を使わせてもらったり、お店や他団体とコラボしてイベントを開催しています。『場所がなくて困っているなら、あそこに聞いてごらん』と言って連れていってくださるなど、皆さんにいろいろお世話になっています」と太田代表理事は、移転で再確認した地域の絆を語ります。

気軽に足を運び 気楽に語らう

くつろぎスペースで談笑するお母さんたちに感想を尋ねると、「

「家から徒歩3分。ここに来ると、小さな子ども同士で遊ばせることができます」「友人が、アットホームな子育てサロンがあるよと連れてきてくれました。子どもも私もリフレッシュしています」

若いお母さんたちにとって、子育て経験のあるサロンスタッフは頼れる先輩でもあります。子育てに限らず、ちょっとした心配ごとや困りごとは、年齢を問わず誰にでもあるもの。早期に解決できれば、大ごとにならずに済みます。

「みんなのひろばの時間ここに来て、雑談しているうちに悩みが解決することもあると思うんです。若者とシニアの方々が笑顔で長話しをしている光景は、ほほえましいですよ」と太田代表理事。

人間関係に悩む人や社会から孤立している人も少なくありません。寂しさ、生きづらさを感じたら、「ねっこぼっここのいえ」へ。いつも温かく迎え、優しく寄り添い、心安らぐ「自分の居場所」を提供してくれます。

特定非営利活動法人 ねっこぼっここのいえ

札幌市豊平区月寒東3条6丁目4-1 2F
TEL:080-6083-6092
E-mail:
nekkobokkohome@yahoo.co.jp



ホームページ



「ねっこぼっここのいえ」が2階に入る建物

「ねっこぼっここのいえ」のプログラム例

★みんなのひろば(参加無料)★

【対象】誰でもOK
【開催】水・土曜日(10時～12時、13時～15時)、
火・第3以外の金曜日(12時～14時、15時～17時)
※おかえりひろば:第3金曜日(15時～17時、18時～20時)

★あかちゃんひろば(参加無料)★

【対象】0～2歳児と保護者(兄姉は未就園に限り参加OK)
【開催】月曜日(10時～12時、13時～15時)

公益財団法人「ノーマライゼーション住宅財団」 の活動をご紹介します

小誌『WITH LIFE』を発行している当財団は1989年設立、公益に資する法人として、「ノーマライゼーションの理念に基づき、高齢者や障がい者にとっても安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備・向上を通して、すべての人が生きがいをもって生活できる社会づくりと、社会福祉の増進に寄与する」ことを[目的]に、主なものとして下記の[事業]を行っています。

- 当財団では、活動理念・趣旨にご賛同いただける方へ、「賛助会員」の入会をお願いしております。
- 当財団へのお問い合わせは、本号2頁記載の連絡先へお願いいたします。
- 当財団の詳細につきましては、ホームページ (<http://normalize.or.jp/>) をご覧ください。

1 広報誌『WITH LIFE』 『共に生きる』発行

生涯、快適に暮らしたいをテーマに、ノーマライゼーションの理念と実践を紹介する当財団の広報誌です。ノーマライゼーションを実践されている方々による具体策、また、関連事例、関連情報源、福祉住宅の実例などの役立つ情報を紹介しています。

■本号通巻57号。バックナンバーを無料提供いたします。



2 助成金により福祉住宅の 建築を支援

高齢者や障がい者にとっても安全で快適に暮らせる住宅、また将来身体機能が低下しても安心して生活できる住宅として新築したりリフォームした建築主、およびグループホームや高齢者向けアパートなどの福祉小規模集合住宅の建築主から応募を受け、審査のうえ今後の参考に資する施工物件に対し

て助成金を給付し、また特に優れた物件については設計施工業者さんを表彰させていただきます。

- 本年度の募集要項(概要)は左記の通りです。詳しくは当財団までお問い合わせください。
- 募集期間 5月1日～11月30日
- 応募方法 当財団ホームページから所定申請書をダウンロードして必要事項記入・提出
- 助成金 総額300万円の範囲内(最高30万円まで)

3 福祉住宅建築助成 実例集『ふれあい』発行

前項の助成対象物件の中から、さらに選考された事例を、写真や図面つきで紹介しています。専門家のアドバイスや、工夫した点、実際暮らしてみた感想なども綴られています。福祉住宅として新築・リフォームを考えている方などにお役立ていただいています。

■通巻32号。バックナンバーを無料提供いたします。(2021年号は介護機器等を紹介する「特別号」です)



4 小中学生による 「安全・快適アイディア」コンテスト

お年よりや障がいのある人が安心して快適に生活するための身近な道具・用具、また安全に外出を楽しめる環境づくりなど、様々な「安全・快適アイディア」を小中学生から絵と文字で提案してもらいます。

- 昨年度(第27回)入賞作品は本号16頁に掲載してあります。
- 本年度の募集要項(概要)は左記の通りです。詳しくは当財団までお問い合わせください。
- 募集期間 6月1日～10月31日
- 応募規格 画用紙(八つ切り)
- 応募方法 当財団ホームページから所定の応募票をダウンロードして必要事項を記入し、作品の裏面に添付

5 福祉事情に関する情報収集 及び提供

国内外各地の福祉施設や福祉事情などを視察した「報告集」を発行しています。

■詳細は当財団へお問い合わせください。





生涯、快適に暮らしたい。